

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、翌年1月12日(土)で、「もっと知りたいカモのことⅡ」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、1月6日(日)の9:30からです。

12月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→桃山公園下→藤棚→手賀沼遊歩道（人工植生島で折返し）→けやき広場でまとめ&解散
- 観察日時と天気：2018年12月8日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：27人（大人18人、子ども9人）
- 市民スタッフ：6人（木村稔*、石原直子、伊東茂子、大嶽若緒、弘實さと子、湯瀬一栄） *印は案内人
- 鳥博職員：1人（齊藤安行）

観察した生き物の記録

【鳥類】カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ*、ノハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ/クイナ科：バン、オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ、ニシセグロカモメ*、クロハラアジサシ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：アリスイ、コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス（声）/エナガ科：エナガ*、メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ*/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン/（家禽および外来種）コブハクチョウ、ドバト

【昆虫】バッタ目：ウスイロササキリ/コウチュウ目：ナナホシテントウ/ハエ目：ガガンボの仲間（幼虫）/チョウ目：オオミノガ（蓑痕跡）/

【その他動物】ほ乳類：アズマモグラ（斃死体）/両生類：アマガエル/クモ類：ジョロウグモ/甲殻類：サワガニ、スジエビ/軟体動物：チリメンカワニナ/虫瘤：ヨモギクキワタフシ（ヨモギタマワタバエ）*

【植物（花）】クスノキ科：シロダモ/キジカクシ科：キチジョウソウ* /キンポウゲ科：タガラシ/アカバナ科：コマツヨイグサ/バラ科：ビワ/カタバミ科：イモカタバミ、カタバミ/スミレ科：スミレ/アブラナ科：ナズナ、ミチタネツケバナ、タネツケバナ、イヌガラシ/ナデシコ科：オランダミミナグサ、ウシハコベ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ*/ツバキ科：サザンカ、チャノキ/ナス科：クコ*/オオバコ科：オオイヌノフグリ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/サギゴケ科：トキワハゼ/キツネノマゴ科：キツネノマゴ/キク科：コセンダングサ、アメリカカタカサブドウ、ヒメジョオン、ハキダメギク、キクイモ、オオジシバリ、ハハコグサ、セイタカアワダチソウ、オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ/ウコギ科：ヤツデ

【植物（果実）】センリョウ科：センリョウ*/クスノキ科：クスノキ、シロダモ/キジカクシ科：キチジョウソウ* /ツツラフジ科：アオツツラフジ/バラ科：ノイバラ/アサ科：ムクノキ/ウリ科：カラスウリ/ウルシ科：ハゼノキ/タデ科：イヌタデ、イシミカワ/サクラソウ科：マンリョウ*/アカネ科：ヘクソカズラ/ナス科：ヒヨドリジョウゴ*/シソ科：クサギ*/スイカズラ科：スイカズラ

(注) *印は12月2日の下見の時に確認した種。

12月の観察アルバム



ホオジロ

今回は、てがたんコースを歩きながら、ホオジロ科の鳥を探しました。みんなで姿を観察できたのは、ホオジロだけでしたが、アオジやオオジュリンは声を確認することができました。

ヨシ原ではオオジュリンの声を最も多く聞くことができ、餌とするカイガラムシの仲間も確認しました。斜面林で確認できたのはアオジだけでした。

基本的な形は似ているけれども好む場所や餌が少しずつ異なるホオジロの仲間の暮らしの一端を観察することができました。



案内人：木村稔さん



①鳥の博物館玄関前のシラカシの樹上にキジバトの古巣が見つかりました。



②斜面林からしみ出す水の流れの中に、ガガンボの仲間の幼虫が見つかりました。



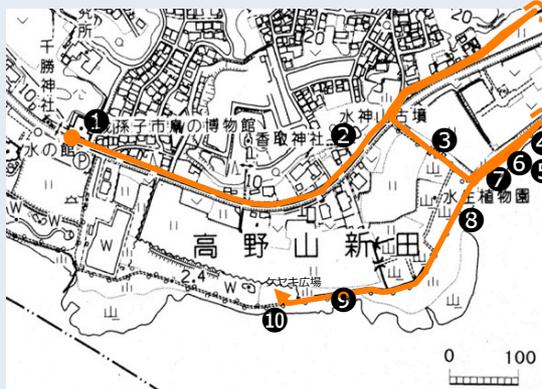
③今年繁殖したモズの巣（左）とアズマモグラの斃死体（右）を観察しました。



④植栽された人工島の樹上で観察されたモズ。



⑤人工島間の水面をカムリカイツブリが横切りました。



歩いたルートと観察した生き物



⑥人工島のヨシの穂にホオジロがとまっていた。



⑦岸辺近くで見られた繁殖羽に換羽中のオスのコガモ。



⑧オオジュリンが餌とするカイガラムシの仲間（枯れたヨシの葉鞘をめくると見られる）。



⑨コブハクチョウの動向調査のための標識付きのコブハクチョウを確認（JK62）。



⑩観察会の最後にクロハラアジサシが見られました。背面に茶色い幼羽が残る個体でした。

今月の鳥 ホオジロ スズメ目ホオジロ科

ホオジロは、国内では北海道から九州の平地から山地まで、日本列島に広く見られる鳥です。北海道以外の地域では留鳥で、疎林や草地など植生に覆われた開放的な環境を好みます。繁殖期は4～9月で、ヤブの中の低い位置にお椀型の巣をつくります。焦げ茶色の細いすじ模様のある卵を3～5個産み、メスが11日間ほど抱卵すると一斉に孵化します。さらに11日間ほど両親に育てられ巣立ちます。

繁殖期のオスは見通しの効く場所で頻りにさえずるため、よく目立ちます。ホオジロのさえずりを「一筆啓上仕り候」と聞きなすことはご存知の方も多
いっぴつけいじょうつかまつりそうろう
いはず。



ホオジロの巣と卵

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。